整然と繰込場まで
会社側ピケで入門阻止
宮浦

指名退職勧告を起点として、組合員・家族の怒りはその頂点に達した。地域団結集会、職場抗議大会と日を追うごとに、闘う盛りあがりはいよいよ高められている。こういう中で、いま勧告拒否者をつつんで繰込場までのデモが毎日つづけられているが、激しい憤りは繰込場で監視の目を光らす会社側の連中に、挑発を避けながらするどい追及がおこなわれている。

十二月十一日会社側は一方的に指名解雇をおしつけてきた。各支部では翌十二日へかけて、指名解雇状を集約したが、各職場、地域では「いよいよおいでなすった」と、心構えはますます固まるばかり、この日を契機として闘いへのファイト、会社側への怒りはピークに達してきた。

十二月十三日、各支部では地域分会ごとに、一せいに〃地域団結集会〃がひらかれた。指名解雇を受けた人と、受けなかった人の離間をねらって、闘いにヒビを入らせてしまおうと、会社側の宣伝も躍気となってきた。この日、各地域分会では、分会広場に鉢巻をしめた組合員、主婦がぞくぞくとつめかける。師走に入り、ネンネコ姿の主婦が各集会場でとくに目立っていた。宮浦支部勝立地区では、午前十時からそれぞれの分会で、集会がもたれた。

最後まで闘い抜く決意を固めた（月見ガ丘）

各地域で団結集会

月見ガ丘分会でも午前十時開始、分会長の経過報告、分会員、主婦たちが意見発表につぎつぎと立つ「会社の一方的なやり方に心の底から憎しみがまします。私たちは、さいごまで、敵より一日長く闘う決意を、さらにこの場で胸の奥に刻みこみましょう」と決意が示されていった。

また、主婦はその立場から革新商店連盟との提携をよびかけ、どこそこの店は革商連ではないから、買物はやめようと意見を出した。この勝立地区では、とくに革商連とのつながりも深く、ちなみに、当分会にも闘争支援激励のため、周辺の革商連店から、つぎつぎと闘争本部へ陣中見舞がおくられている。こんどの闘いを通じて、労働者と商人の間に血の通ったスクラムがガッチリと組まれている。意見発表のあと分会長から「指名退職を受けた人たちへ対して、分会全員でこんどコークスをカンパして行こう」など二、三の提案があったが、誰一人反対する者もなく、満場一致で共に闘っていく決意が力強く示された。

通松分会では、団結集会後〃どんと来い〃をはじめいくつかのうたごえ指導がはじめられたが、ユーモラスなハヤシに、みんながどっと笑い崩れるなど、明るい笑い声で、このきびしい闘いに勝抜くことを誓い合った。

会社側雲がくれ

十二月十四日、各職場では指名解雇にたいする抗議の火ブタを切った。だが、組合員の怒りをおそれた会社側は、朝からドロンをきめこみどこへ行ったか姿をくらましてしまっていた。このため、会社側にたいする直接の抗議はできなかったが、鉱長室の前で抗議デモをおこない〃団結頑張ろう〃と三唱して、決起大会に切替えていった。港務支部一番方は午後三時に組合事務所前に集合、事務所二階へデモをおこなったが、ここも他の支部同様職制の席はガランドウ、〃かれらがいなくとも三池炭鉱は業務には何一つさしつかえないことが、これでハッキリした。こういう必要のない人間こそ辞めてもらおう〃と、あまりの会社のやり方に組合員はハラの底から憤って叫んだ。抗議はすぐさま事務所内で決起大会に切替えられ、抗議に参加した日教組、照炭労、国鉄のオルグからつぎつぎと激励の挨拶がおこなわれた。

会社側の一方的に出した指名退職勧告・指名解雇は、自動的に十六日から職場に入ることを禁じてきた。組合では強行就労を避け、敵の挑発にひっかからぬため、指名解雇を受けた人たちは各番方とも、繰込場まで平常通り出向き、繰込では支部闘争委員長の指示にしたがうことにして、十六日の一番方からこれを実施したところが会社側は、これらの人たちの入門さえ阻止する行動に出て来た

繰込場で追及
主婦の拍手で繰込場まで

宮浦支部ではこの日一番方繰込みから、勧告拒否者激励のため、主婦会、組合員が激励にかけつけ、各部内の人たちはこの人たちを囲んで入門しようとした。

ところが、会社側は正門前に白腕章をはめた人間を十数名待機させピケを張って阻止しようとしたことから紛争し、支部長ら三名が負傷するという問題さえ起した。しかしこれ以外はたいした問題もなく、予定通り繰込場へ行き、勧告を受けた者も受けなかった者も、さらに闘う決意を固めていった。いらい毎日、拒否者を囲んで繰込場で団結が固められている。

三川、四山、本所、港務支部とも目立った抵抗は見られなく、連日就労がおこなわれているが、会社側ではスピーカーから〃立入禁止〃を叫びつづけている。

【写真】三川繰込場で拒否者を前に闘いの決意を更に固めた。

監視する白腕章

この日二番方繰込みの三川鉱では主婦会員が正門前から鉱長室前まで両側に激励のための列をつくって、入門を待ちかねていた。「ワッショイ、ワッショイ」と拒否者を先頭に、各部内ごとにつぎつぎと入門してくる。これを拍手で迎える主婦たち、みんな祭りに燃えながら繰込場までデモだ。繰込場には宮地副長をはじめ本店などから連れて来たと思われる連中十名近くが、白腕章をはめて、ストーブのぐるりにたむろし、繰込状態を見つめていた。各部内とも繰込場につくや、ただちに拒否者を中心に集会をやり、激励をはじめる。そして労働歌合唱ののち、団結頑張ろうを三唱しつぎつぎと繰込んで行く。繰込場は主婦たちも入り人波で埋まるほどだった。

ある若い組合員は拒否者だが、公傷療養中だったため、十九日から立入禁示を通知されていた。繰込場に来てみると繰込札がない。ところが職制は「家へ帰ってくれ」といった。真面目に仕事をしようと来てみると仕事をさせないというのである。若い組合員は怒ってどうして呉れるのだと詰めよった主婦たちも宮地副長を囲んで、口々にその不当をなじり、また夫を理由もなく首切られた主婦たちはその理由をつぎつぎと追及していった。繰込場での片方の隅では、繰込監視に来ている白腕章の会社側を囲んで、ここでも激しく抗議がつづけられていった。

こうしてこの日の二番方繰込での抗議は、午後四時ごろまでつづけられたが、主婦も組合員も彼らのはっきりした答弁を聞くまでは、連日つづけるのだと誓い合って解散した。

拍手の中を繰込場までデモで入場（三川）

闘争日誌（十二月十六日）
三川　くさの・じん

広場に座つて話しながら
地面（ジヅラ）に書く「資本主義」
―今日から俺は仕事が出来ない―
一片の紙切れだけで
首を切り
入門を拒み
昨日までの仕事を奪い……
―こんな世の中がつづいてたまるもんか―
「資本主義」は
冷こく、　非情！
だから
今日　仕事をしている仲間たちも
首の不安がつきまとうのだ。
この怒りと不安がひとつになつて
首切りを撤回させる！
平和な世の中をつくる！
―大きい闘いなんだ―

×　×　×

今日　俺は
「資本主義」を
はつきりとみた。

職場まで見送り
臼井・勧告者をつつんで

指名解雇は自動的一方的に十二月十六日から、勧告を受けた者の職場立入りを禁止した。各支部では組合の指示通り各番方繰込場までの入場を毎日おこなっているが、港務支部臼井地域分会では、その前日まで退職勧告者を地域全員がつつみこんで、十二月三日から連日職場まで送り出すという、地域ぐるみ、家族ぐるみの団結の固さをみせていた。

臼井分会には勧告者が二十二名出た。分会では組合指示にもとずいて、退職勧告が来た場合は全員が暖い気持ちで迎え、激励するという趣旨のもとに、さつそく企画委員会で論議し、闘争委員会にかけてさらにそれを大衆討議し、実施にかかつたわけであり、いらい職場までの見送りは十二月十五日までつづけられた。

この見送り期間中、朝は午前四時五十分の一番方から夜は三番方まで常一番を加える四回の見送りに分会内からは不平一つ出なく、毎日暖い気持ちで実施された。これは、自分たちみんなの闘いだという気持が、一人一人の胸に強くたたみ込まれていたことを強く物語つている。

見送りには責任者を含めて十五名が参加、分会内には宮浦・四山の人たちもおり、そちらの職場にも当然この見送りはつづけられた。一番方見送りには二番方の人があたり、中には家に帰つたトタン、出勤するという忙しい人もあつたが、みんなから不平一つ出なかつた。勧告者は早朝から夜明けまでの激励に、気の毒がつていたが、闘いは全員のものだと理解してもらつて受けてもらつた。

こうして毎朝闘争本部からスピーカーを通じて流れる合図で、割あての人たちは毎日キチンと本部に集つて、勧告者を囲んで職場へ出発した。

木本分会長の話

こんなに皆の気持ちが盛上つているのは始めてです。この実施を企画委員会で取上げたことは今でも正しいと思つている。だがきめたにしても、下からの盛上りがなければ、こんなに消化されなかつたろう。地域がガツチリ固まつていることを目のあたり見せられたようで、皆さんに感謝しています。